

笠原氏 提出資料

H28.6.13(月)

小麦粉の原料原産地表示について

笠原産業株式会社 代表取締役社長
麦わらぼうしの会 会長
笠原健一

笠原産業及び麦わらぼうしの会の取組み

1. 笠原産業と麦わらぼうしの会
2. 栃木県産小麦を取巻く環境
3. 栃木県産小麦の魅力は何か？
4. つながりも商品価値！？

1. 笠原産業と麦わらぼうしの会

笠原産業(株)

- 大正8年創業
- 栃木県下唯一の小麦粉製造業
- 平成27年度栃木県産小麦使用割合約22%
群馬・茨城県産小麦使用割合約6%



麦わらぼうしの会

- 平成14年設立
- 小麦生産農家・JA・製粉企業・製パン製麺製菓業者
食品問屋スーパー流通業者・サポーター組織団体消費者の集まり
- 栃木の小麦の消費拡大を目指す
- 栃木小麦応援団組織の立ち上げの必要性



麦わらぼうしの会

2. 栃木県産小麦を取巻く環境

■平成12年産国内産小麦から民間流通制度へ移行

■栃木県産小麦は不人気小麦へ

■栃木県産「農林61号」の加工と笠原産業単独の販売の行き詰まり

■脈々と続く小麦生産が継続し得ない懸念とその対策

5 都道府県別・麦種別収穫量（平成25～27年産）

（単位：トン）

年産	平成25					26					27(概数)				
種類	小 麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	4麦計	小 麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	4麦計	小 麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦	4麦計
北海道	531,900	5,080	-	x	537,000	551,400	5,880	-	25	557,300	723,800	6,700	-	39	730,500
青 森	2,980	-	-	-	2,980	2,340	-	-	-	2,340	3,050	-	-	-	3,050
岩 手	7,290	x	x	-	7,430	6,370	x	158	-	6,530	6,940	x	238	-	7,180
宮 城	3,970	-	2,850	-	6,820	3,490	-	1,900	-	5,390	4,600	-	2,890	-	7,490
秋 田	417	3	5	-	425	609	3	9	-	621	708	3	x	-	x
山 形	174	-	30	-	204	134	-	36	x	x	202	-	23	x	x
福 島	483	x	x	-	491	366	x	x	-	372	436	x	9	-	x
茨 城	16,000	4,010	5,430	x	25,500	15,400	1,640	4,360	15	21,400	15,700	2,960	6,110	x	24,800
栃 木	8,880	37,500	5,080	8	51,500	8,380	20,900	2,340	3	31,600	9,370	35,900	5,480	8	50,800
群 馬	25,400	5,410	2,060	-	32,900	23,600	4,540	1,290	-	29,400	23,500	5,390	1,880	-	30,800
埼 玉	20,400	2,920	886	171	24,400	19,200	2,400	701	122	22,400	20,900	2,920	775	144	24,700
千 葉	1,890	x	x	-	2,040	2,470	x	117	x	2,590	2,440	-	134	x	x
東 京	67	x	-	x	70	52	x	-	x	54	40	2	-	x	x
神奈川	99	x	x	-	x	100	x	4	x	x	106	x	4	x	x
新 潟	x	x	492	-	524	42	-	508	-	550	47	x	373	-	x
富 山	74	17	9,770	-	9,860	58	x	10,200	-	10,300	87	x	10,100	-	10,200
石 川	x	x	3,190	-	3,360	117	x	3,150	-	3,270	119	x	3,620	-	3,750
福 井	36	-	15,600	-	15,600	230	-	16,100	-	16,300	90	-	15,500	-	15,600
山 梨	188	x	x	-	264	181	x	75	-	x	172	x	92	-	x
長 野	6,010	-	1,620	-	7,630	7,200	-	1,720	-	8,920	8,010	-	1,850	-	9,860
岐 阜	9,520	-	329	-	9,850	10,300	-	413	x	10,700	8,800	-	290	-	9,090
静 岡	1,640	6	16	-	1,660	1,880	7	16	-	1,900	902	11	15	-	928
愛 知	22,000	x	289	-	22,300	23,200	x	357	x	23,600	21,000	3	282	x	21,300
三 重	16,200	-	954	x	17,200	20,800	-	1,020	x	21,800	16,800	-	821	x	17,600
滋 賀	18,300	199	x	574	20,200	21,400	257	1,220	707	23,600	17,800	202	1,100	311	19,400
京 都	172	184	x	-	x	203	268	x	-	x	157	204	x	-	x
大 阪	x	-	-	-	x	x	-	-	x	x	x	-	-	x	x
兵 庫	3,880	-	1,180	x	5,080	4,400	-	1,090	48	5,540	3,680	-	902	59	4,640
奈 良	201	-	-	x	x	273	-	x	x	x	220	-	x	x	x
和歌山	6	-	-	-	6	6	-	x	-	x	4	-	x	-	x
鳥 取	46	214	49	-	309	41	207	9	-	257	68	230	23	-	321
島 根	141	1,380	x	x	1,590	140	1,230	x	48	x	137	1,300	20	35	1,490
岡 山	1,720	7,270	x	x	9,070	1,950	7,600	x	75	9,630	1,760	5,560	x	40	7,360
広 島	394	-	144	x	x	399	x	160	5	x	292	x	131	5	x
山 口	2,070	242	-	575	2,890	2,640	257	-	599	3,500	3,010	187	-	547	3,740
徳 島	x	x	-	89	347	193	62	-	99	354	178	52	-	93	323
香 川	5,590	-	-	3,490	9,080	4,600	-	-	2,520	7,120	4,810	-	-	2,450	7,260
愛 媛	486	-	-	4,610	5,100	545	-	-	4,870	5,420	479	-	-	3,810	4,290
高 知	x	x	-	0	28	16	x	-	0	x	9	x	-	0	x
福 岡	50,200	16,200	-	1,230	67,600	57,600	18,600	-	1,370	77,600	46,200	14,300	-	1,060	61,600
佐 賀	29,600	26,300	-	526	56,400	34,400	33,500	-	695	68,600	29,700	27,700	-	484	57,900
長 崎	1,570	2,520	-	120	4,210	1,780	3,070	-	185	5,040	1,630	2,930	-	141	4,700
熊 本	14,300	4,070	x	118	18,500	16,200	4,800	x	141	21,200	13,500	4,270	x	105	17,900
大 分	6,760	2,600	28	2,950	12,300	7,310	2,540	26	2,940	12,800	4,530	1,830	34	1,870	8,260
宮 崎	159	108	-	20	287	284	161	-	15	460	97	138	-	4	239
鹿児島	65	239	x	9	x	89	273	x	13	x	56	235	-	11	302
沖 縄	36	-	-	-	36	49	-	-	-	49	23	-	-	-	23
都府県	279,800	111,500	51,500	14,700	457,600	301,000	102,400	47,000	14,500	464,900	272,400	106,300	52,700	11,200	442,700
全国計	811,700	116,600	51,500	14,700	994,600	852,400	108,200	47,000	14,500	1,022,000	996,200	113,000	52,700	11,200	1,173,000

資料：農林水産省「作物統計」による。なお、平成27年産の数値は、「平成27年産4麦の収穫量」（平成27年11月17日公表）による。

注：1）四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

2）「-」は事実のないもの、「x」は個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値は公表しないものである。

6 麦の作付面積上位10県の生産状況（平成27年産）

(1)小麦

県 名	作付面積(ha)	生産量(トン)	単収(kg)
北海道	122,600	723,800	590
福 岡	15,200	46,200	304
佐 賀	9,850	29,700	302
滋 賀	7,190	17,800	248
三 重	6,340	16,800	265
群 馬	5,580	23,500	421
愛 知	5,580	21,000	376
埼 玉	5,060	20,900	414
熊 本	4,900	13,500	276
茨 城	4,670	15,700	336
上位10県計 (全国計に占める割合)	186,970 (87.7%)	928,900 (93.2%)	-
全 国 計	213,100	996,200	467

(2)二条大麦

県 名	作付面積(ha)	生産量(トン)	単収(kg)
佐 賀	10,500	27,700	264
栃 木	9,170	35,900	391
福 岡	6,070	14,300	235
岡 山	2,130	5,560	261
熊 本	1,730	4,270	247
北海道	1,640	6,700	409
群 馬	1,480	5,390	364
大 分	1,150	1,830	159
長 崎	1,110	2,930	264
茨 城	1,080	2,960	274
上位10県計 (全国計に占める割合)	36,060 (95.1%)	107,540 (95.2%)	-
全 国 計	37,900	113,000	298

(3)六条大麦

県 名	作付面積(ha)	生産量(トン)	単収(kg)
福 井	5,420	15,500	286
富 山	3,340	10,100	301
茨 城	2,340	6,110	261
栃 木	1,510	5,480	363
石 川	1,250	3,620	290
宮 城	1,090	2,890	265
群 馬	523	1,880	360
長 野	495	1,850	374
兵 庫	440	902	205
滋 賀	407	1,100	271
上位10県計 (全国計に占める割合)	16,815 (92.4%)	49,432 (93.8%)	-
全 国 計	18,200	52,700	290

(4)はだか麦

県 名	作付面積(ha)	生産量(トン)	単収(kg)
愛 媛	1,730	3,810	220
大 分	1,040	1,870	180
香 川	918	2,450	267
福 岡	445	1,060	239
山 口	411	547	133
佐 賀	189	484	256
滋 賀	97	311	321
長 崎	88	141	160
熊 本	73	105	144
徳 島	52	93	178
上位10県計 (全国計に占める割合)	5,043 (97.0%)	10,871 (97.1%)	-
全 国 計	5,200	11,200	215

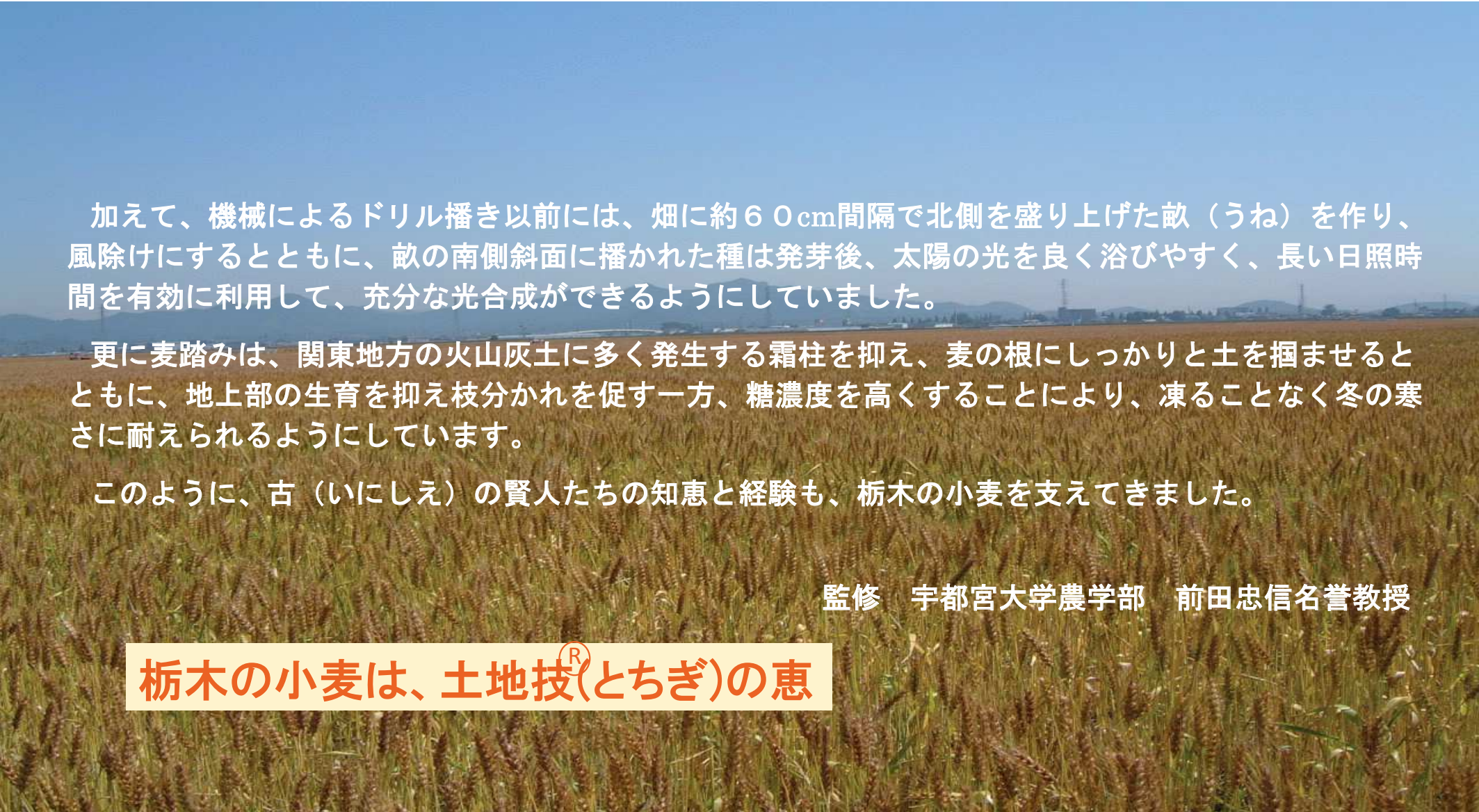
資料：農林水産省「平成27年産4麦の収穫量」（平成27年11月17日公表）による。

3. 栃木県産小麦の魅力は何か？

栃木の小麦の美味しい理由

栃木県は、

- ①関東ローム層を黒ボク土が覆い、水はけもよく、また、麦の生育中に根を深く張ることが出来る。
 - ②冬の日照時間が長く、3月の莖立期（くきだちき）までの間に、茎基部（茎のもとの部分）に十分な蓄えを作ることが出来る。
 - ③春先の低温が病害の発生を少なくし、防除回数も減らすことが出来る。
 - ④収穫期の6月は梅雨にかかり、本来、麦の収穫に雨は大敵だが、比較的県内では長雨とならない。
 - ⑤二毛作の北限で、水稻と麦、もしくは大豆と麦の2毛作ができ、農家としての経営が成り立つ。
- などの理由から、昔から麦作に適していると言われています。



加えて、機械によるドリル播き以前には、畑に約60cm間隔で北側を盛り上げた畝（うね）を作り、風除けにするとともに、畝の南側斜面に播かれた種は発芽後、太陽の光を良く浴びやすく、長い日照時間を有効に利用して、十分な光合成ができるようにしていました。

更に麦踏みは、関東地方の火山灰土に多く発生する霜柱を抑え、麦の根にしっかりと土を掴ませるとともに、地上部の生育を抑え枝分かれを促す一方、糖濃度を高くすることにより、凍ることなく冬の寒さに耐えられるようにしています。

このように、古（いにしえ）の賢人たちの知恵と経験も、栃木の小麦を支えてきました。

監修 宇都宮大学農学部 前田忠信名誉教授

栃木の小麦は、土地技[®](とちぎ)の恵

それよりも……

- 人や組織のつながりが一番の自慢
- それぞれの立場で消費を喚起させる努力と支え合う意義の共感
- 安心は、関わる人や組織とその内容が見えること



4. つながりも商品価値！？

■商品の実用的魅力＝品質・性能・機能＋安全性＋経済性＋利便性＋安定性＋均一性＋……
(モノに由来する)

■コトに由来するものは？
つながり・社会性・自信や誇り・支え合う共感・人間的豊かさ・環境への配慮 等

■勝手ながら…
商品力＝商品が有するモノとコトの魅力

■麦わらぼうしの会のキャッチフレーズ

小麦のつながりを、大きな力

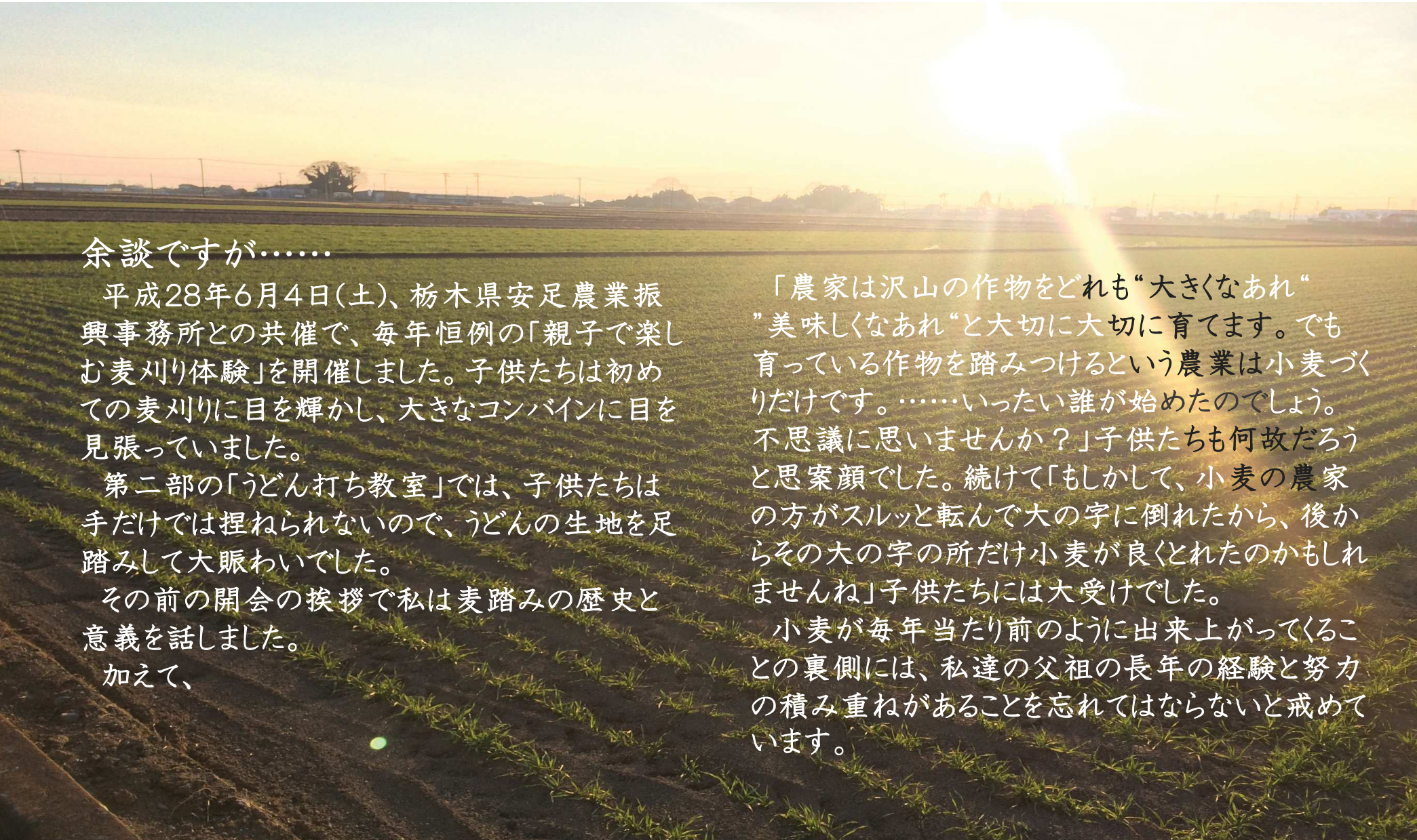


■表示はつながりの証



「栃木県産小麦100%使用」表示の家庭用小麦粉





余談ですが……

平成28年6月4日(土)、栃木県安足農業振興事務所との共催で、毎年恒例の「親子で楽しむ麦刈り体験」を開催しました。子供たちは初めての麦刈りに目を輝かし、大きなコンバインに目を見張っていました。

第二部の「うどん打ち教室」では、子供たちは手だけでは捏ねられないので、うどんの生地を足踏みして大賑わいでした。

その前の開会の挨拶で私は麦踏みの歴史と意義を話しました。

加えて、

「農家は沢山の作物をどれも“大きくなあれ” “美味しくなあれ”と大切に大切に育てます。でも育っている作物を踏みつけるという農業は小麦づくりだけです。……いったい誰が始めたのでしょうか。不思議に思いませんか？」子供たちも何故だろうと思案顔でした。続けて「もしかして、小麦の農家の方がスルッと転んで大の字に倒れたから、後からその大の字の所だけ小麦が良くとれたのかもしれない」子供たちには大受けでした。

小麦が毎年当たり前のように出来上がってくることの裏側には、私達の父祖の長年の経験と努力の積み重ねがあることを忘れてはならないと戒めています。



笠原産業株式会社

栃木県足利市福居町819

TEL:0284-71-3181

FAX:0284-72-5641

<http://www.kasa-kona.co.jp/>



麦わらぼうしの会

<http://www.mugiwaraaboshi.jp/>